



ダクトレスフュームフード /  
空気清浄機能付薬品保管棚  
共通マニュアル

# 1. ダクトレスフュームフードのセットアップ

## セットアップ作業にあたり

開梱、組み立ての際は手袋をするなど怪我をしないよう十分に注意をし、平らで水平な床面もしくは卓面を選んで機材を設置してください。二名以上で作業を行い、高所の作業は脚立を使用してください。作業中はコンセントを電源に挿入しないでください。また、機器が地震その他の振動で倒れないように防ぐ措置を取ってください。

- 1.1 フュームフード本体と専用台座との固定を行います。本体底部と専用台座上部の四隅にネジ穴があります。付属のネジで上下固定をしてください。作業空間が限られるため、長めのドライバーの使用をお勧めします。



- 1.2 包装状態から十分に注意をしながらフュームフード本体部分、フィルタモジュール、吸排気ファンユニットをそれぞれ取り出します。フュームフード本体に下層のフィルタモジュールを設置します。フィルタモジュールは金属プレートのある方が下になります。(HEPA 式フィルタモジュールは貼られているシールに上下区別の記載があります)

- 1.3 フィルタモジュールの隅をフュームフード本体上部L字型ストッパー位置に合わせて設置します。下図参照；

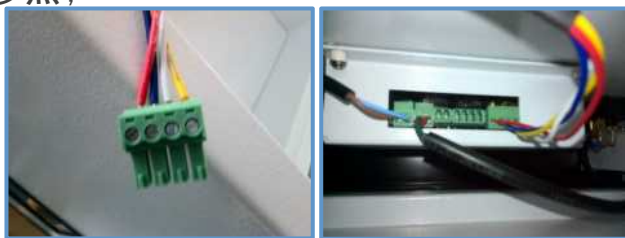


- 1.4 吸排気ファンユニットをフィルタモジュールの上に設置します。この時後方パネルにある電源コネクタ部分に触れないように注意してください。吸排気ファンユニットはファンが露出している面が上になるようにします。フィルタモジュールが定位置に設置されていれば吸排気ファンユニットはフィルタモジュールをちょうど覆いかぶす位置に収まります。下図参照；



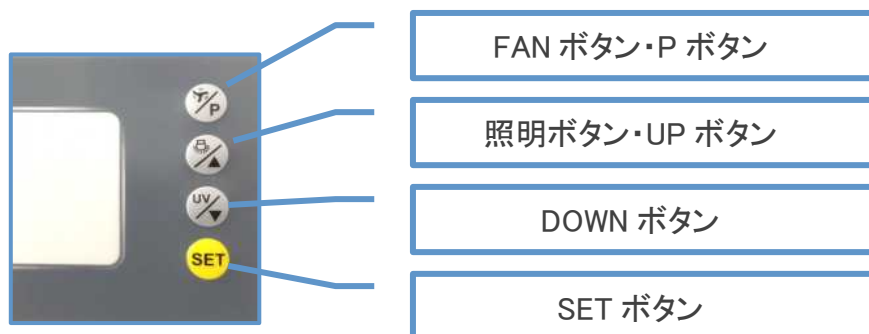
- 1.5 上層のフィルタモジュールを吸排気ファンユニットの上部に設置します。フィルタモジュールは金属プレートのある方が下になります。(HEPA 式フィルタモジュールは貼られているシールに上下区別の記載があります)
- 1.6 吸排気ファンユニットのコネクタ端子をコントロールパネル端にある4つ穴の差込み口へゆっくり確実に挿入固定します。この時コネクタ端子にある4つの白色ネジが前方を向いていることを確認します。吸排気ファンユニットが2つ以上あるモデルではその他の吸排気ファンユニットの全てを2つ目の4つ穴差込み口と連結させます。下

図参照;



- 1.7 基盤の側面下から最初の差込み口がフィルタモジュール用センサーのコネクタ、下から3つ目がフェームフード前面風速センサー用のコネクタです。差込みの方向を正しく確認ししっかりと挿入固定が出来れば十分です。
- 1.8 電源ケーブルを電源に繋ぎ、スイッチを ON にするとダクトレスフェームフードが運転を開始します。

## 2. ダクトレスフェームフードのコントロールパネル操作方法



- 2.1 本体側面スイッチを ON にし、パネルモニタが正常に表示されることを確認します。
- 2.2 指先でダクトレスフェームフードの FAN ボタン(1番目のボタン)を「ピー」という電子音が鳴るまで押し続けます。モニタ上に吸排気ファンの回転数が「rpm」の欄に、フェームフード前面風速が「Face Velocity」欄に数値で表示されます。FAN を OFF にするには同様に FAN ボタンを押し続けます。

2.3 指先でダクトレスフュームフードの照明ボタン(2番目のボタン)を「ピー」という電子音が鳴るまで押し続けることで照明が点灯します。消灯するには同様に照明ボタンを押し続けます。

## 2.4 数値の設定

2.4.1 累計作動時間のタイマー設定: 指先でダクトレスフュームフードの SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピー」という電子音が鳴ってから3秒間押し続けると「Time 99」の文字が点滅表示されます。これは99時間を意味しており、UP/DOWN ボタン(2番目3番目のボタン)で累計作動時間を設定したい時間数に合わせます。この設定をしない場合でも作動後累計99時間が経った時点で30秒間光と音によるアラームが作動します。これは故障ではなく正常な状態です。アラームの後再度自動的に99時間のタイマーがカウントダウンを開始します。

2.4.2 風量の大きさ設定: 指先でダクトレスフュームフードの SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピッ」という電子音が鳴ってから P ボタン(1番目のボタン)を再度「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けると「FAN50」の文字が点滅表示されます。これは吸排気ファンの回転数を意味しており、UP/DOWN ボタン(2番目3番目のボタン)で回転数を設定したい風量に合わせます。通常この設定をする必要はなく、フィルタモジュールを相当長時間使用した後など風量が不足した場合にこの設定を行い適切なフュームフード前面風速が出せるようにするためのものです。

2.4.3 フィルタモジュール飽和アラーム濃度設定: 指先でダクトレスフュームフードの SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピッ」という電子音が鳴ってから P ボタン(1番目のボタン)を2度「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けると「FSCS5.0」の文字が点滅表示されます。これはフィルタモジュールの飽和濃度アラーム設定値

5.0ppm を意味しており、上下ボタン(2番目3番目のボタン)で飽和濃度アラームを設定したい濃度に合わせます。工場出荷デフォルトの設定は 5.0ppm となっており、通常この設定をする必要はありません。飽和濃度アラームを設定した濃度に達した或いは超えた場合に光と音によるアラームが作動します。

- 2.4.4 室内空気品質(TVOC)アラーム濃度設定: 指先でダクトレスフュームフードの SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けます。「TVOC 05」の文字が点滅表示されます。これは TVOC 濃度アラーム設定値 5.0ppm を意味しており、上下ボタン(2番目3番目のボタン)で濃度アラームを設定したい濃度に合わせてから再度 SET ボタンを押します。工場出荷デフォルトの設定は 5.0ppm となっており、通常この設定をする必要はありません。TVOC 濃度アラームを設定した濃度に達した或いは超えた場合に光と音によるアラームが作動します。
- 2.4.5 設定値の保存: 上記作業にて設定値はすでに保存がされています。本体側面のスイッチを OFF にしてもそれ以前に設定された値は保存されています。また累計作動時間の時間数も保存されています。

### 3. 空気清浄機能付薬品保管棚のセットアップ

#### セットアップ作業にあたり

開梱、組み立ての際は手袋をするなど怪我をしないよう十分に注意をし、平らで水平な床面もしくは卓面を選んで機材を設置してください。二名以上で作業を行い、高所の作業は脚立を使用してください。作業中はコンセントを電源に挿入しないでください。また、機器が地震その他の振動で倒れないように防ぐ措置を取ってください。

- 3.1 包装状態から十分に注意をしながら薬品保管棚本体部分、フィルタモジュール、吸排気ファンユニットをそれぞれ取り出します。
- 3.2 薬品保管棚の扉鍵は本体背面に貼り付けられています。下図参照；



- 3.3 前面パネルの左右取り付けベースを組み付けます。下図参照；



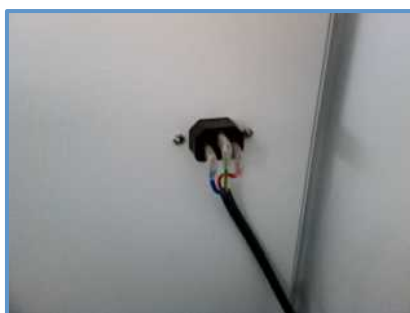
3.4 前面パネルを薬品保管棚本体上部に固定します。下図参照；



3.5 薬品保管棚本体に下層のフィルタモジュールを設置します。フィルタモジュールは金属プレートのある方が下になります。(HEPA 式フィルタモジュールは貼られているシールに上下区別の記載があります)下図参照；



3.6 吸排気ファンユニットをフィルタモジュールの上に設置します。この時後方パネルにある電源コネクタ部分に触れないように注意してください。吸排気ファンユニットはファンが露出している面が上になるようにします。フィルタモジュールが定位置に設置されていれば吸排気ファンユニットはフィルタモジュールをちょうど覆いかぶす位置に収まります。下図参照；

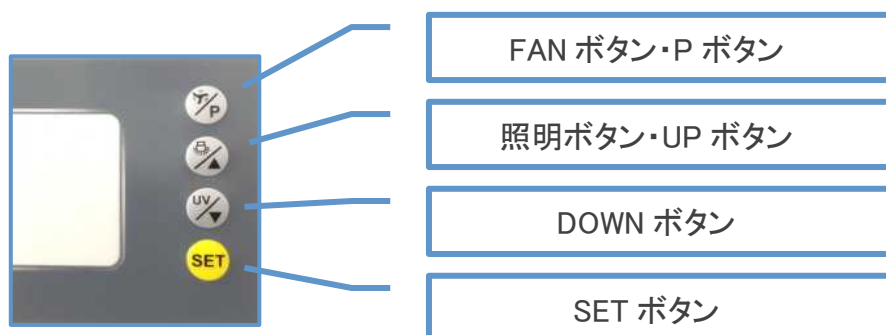




- 3.7 上層のフィルタモジュールを吸排気ファンユニットの上部に設置します。フィルタモジュールは金属プレートのある方が下になります。(HEPA 式フィルタモジュールは貼られているシールに上下区別の記載があります)
- 3.8 吸排気ファンユニットにつながっている2つの異なる色のコネクタ端子を全面パネルにつながっているコネクタと接続します。同じ色のコネクタ同士を接続します。
- 3.9 電源ケーブルを電源に繋ぎ、スイッチを ON にするとモニターパネルが表示され、更に電源ボタンを「ピー」という電子音が鳴るまで押し続けると空気清浄機能付薬品保管棚が運転を開始します。電源ケーブルは付属のクリップで薬品保管棚本体側面へ固定し垂れ下がらないようにします。下図参照;



#### 4. 空気清浄機能付薬品保管棚のコントロールパネル操作方法



- 4.1 本体側面スイッチを ON にし、モニターパネルが正常に表示されていることを確認しま

す。

4.2 指先で空気清浄機能付薬品保管棚の FAN ボタン(1番目のボタン)を「ピー」という電子音が鳴るまで押し続けます。モニタ上に吸排気ファンの回転数が「rpm」の欄に数値が表示されます。ファン回転を OFF にするには同様に FAN ボタンを押し続けます。

#### 4.3 数値の設定

4.3.1 4.3.1 作動日数のタイマー設定： 指先で空気清浄機能付薬品保管棚の SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピー」という電子音が鳴ってから3秒間押し続けると「DTR 365」の文字が点滅表示されます。これは365日(1年間)を意味しており、UP/DOWN ボタン(2番目3番目のボタン)で作動日数を設定したい日数に合わせます。この設定をしない場合でも作動後累計365日経った時点で30秒間光と音によるアラームが作動しフィルタモジュールの交換時期(参考時間)を告げます。これは故障ではなく正常な状態です。アラームの後再度自動的に365日のタイマーがカウントダウンを開始します。

4.3.2 風量の大きさ設定： 指先で空気清浄機能付薬品保管棚の SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピー」という電子音が鳴ってから P ボタン(1番目のボタン)を再度「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けると「FAN50」の文字が点滅表示されます。これは吸排気ファンの回転数を意味しており、UP/DOWN ボタン(2番目3番目のボタン)で回転数を設定したい風量に合わせます。通常この設定をする必要はなく、フィルタモジュールを相当長時間使用した後など風量が不足した場合にこの設定を行い適切な空気清浄機能付薬品保管棚内風速が出せるようにするためのものです。

- 4.3.3 フィルタモジュール飽和アラーム濃度設定： 指先で空気清浄機能付薬品保管棚の SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピー」という電子音が鳴ってから P ボタン(1番目のボタン)を 2 度「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けると「FilterALM5.0PPM」の文字が点滅表示されます。これはフィルタモジュールの飽和濃度アラーム設定値 5.0ppm を意味しており、上下ボタン(2番目3番目のボタン)で飽和濃度アラームを設定したい濃度に合わせ SET ボタンを押します。工場出荷デフォルトの設定は 5.0ppm となっており、通常この設定をする必要はありません。飽和濃度アラームを設定した濃度に達した或いは超えた場合に光と音によるアラームが作動します。
- 4.3.4 室内空気品質(TVOC)アラーム濃度設定： 指先で空気清浄機能付薬品保管棚の SET ボタン(4番目の黄色ボタン)を「ピッ」という電子音が鳴るまで押し続けます。「ESC 05」の文字が点滅表示されます。これは TVOC 濃度アラーム設定値 5.0ppm を意味しており、UP/DOWN ボタン(2番目3番目のボタン)で濃度アラームを設定したい濃度に合わせます。工場出荷デフォルトの設定は 5.0ppm となっており、通常この設定をする必要はありません。TVOC 濃度アラームを設定した濃度に達した或いは超えた場合に光と音によるアラームが作動します。
- 4.3.5 設定値の保存：薬品保管棚は常に作動している(スイッチが入っている)状態を想定し設計されているため、本体側面スイッチを OFF にすると以前に設定した値はクリアされ工場出荷デフォルトの値に戻ります。

## 5. 製品の使用環境

- 5.1 室内で使用し、床面に対し垂直に設置すること。
- 5.2 温度： 15°C ~ 30°C
- 5.3 湿度： 30% ~ 70%

## 6. 製品を正常にお使いいただくために

- 6.1 万一化学薬品が製品に直接触れた場合はすぐに拭き取ってください。
- 6.2 薬品棚に保存をする際には化学薬品の瓶蓋をしっかり締めてください。化学薬品の蒸発を減少させることでフィルタモジュールの使用寿命の延長に寄与します。
- 6.3 ヒュームフードをお使いの際には可能な限り化学薬品の蒸発が少なくなるようご留意いただくことでフィルタモジュールの使用寿命の延長に寄与します。
- 6.4 ヒュームフードの前面風速を測定するセンサーは非常に敏感な精密機器です。決して触れたりしないようにご注意ください。
- 6.5 フィルタモジュールが飽和した際には早急にフィルタモジュールを交換してください。飽和状態のフィルタモジュールを継続して使用すると製品の吸排気ファンや TVOC センサーなどに悪影響を与えるだけでなく、作業場の人員へ健康上の悪影響を及ぼします。

## 7. フィルタモジュールの交換方法

### フィルタモジュール交換作業にあたり

作業の際はゴーグル、マスク、手袋をするなどホコリや有害物質の身体への付着、侵入を防ぎ、また怪我をしないよう十分に注意をしてください。脚立を使用し、二名以上で作業を行ってください。作業中はコンセントを電源に挿入しないでください。

コントロールパネル上の「FC(フィルタモジュール飽和アラーム濃度設定)値」が設定した濃度を超えた場合に光と音によるアラームが作動します。以下の手順で早急にフィルタモジュールを交換してください。

- 7.1 電源ケーブルを電源から抜き、製品が通電していない状態にします。
- 7.2 上層フィルタモジュールを取り外します。
- 7.3 吸排気ファンユニットを取り外します。
- 7.4 下層フィルタモジュールを取り外します。
- 7.5 先ほど取り外した上層フィルタモジュールを下層フィルタモジュールとして初期セットアップ時と同様に設置します。ただし、これは上下層を同タイプのフィルタモジュールで使用している場合に限りです。上下層を異なるタイプのフィルタモジュールで使用している場合は上下ともにそれぞれ新品と交換ください。
- 7.6 吸排気ファンユニットを初期セットアップ時と同様に設置します。
- 7.7 新しいフィルタモジュールを上層に初期セットアップ時と同様に設置します。
- 7.8 電源ケーブルを電源につなげ、初期セットアップ時と同様に電源を ON にし再始動させます。

## 8. フィルタモジュールの種類

製品モデル名	用途
TY	無機混合物気体、酸性気体に対し強い付着性を発揮し、有機化合物気体に対して YJ モデル同等の付着効果を持つ。オールマイティのモデル。
YJ	有機化合物気体に対し強い付着性を発揮し、無機混合物気体に対しても一定の付着効果を持つモデル。
FM	ホルマリンに対し強い付着効果を発揮するモデル。
AM	アンモニアに対し強い付着効果を発揮するモデル。
HP	微粒子フィルターモデル。大きさ 0.3 $\mu$ m 以上の微粒子を 99.995% 濾過。

## 9. フュームフード内蛍光灯の交換方法

### 蛍光灯交換作業にあたり

作業の際はゴーグル、マスク、手袋をするなどホコリや有害物質の身体への付着、侵入を防ぎ、また怪我をしないよう十分に注意をしてください。作業中はコンセントを電源に挿入しないでください。

- 9.1 電源ケーブルを電源から抜き、製品が通電していない状態にします。
- 9.2 蛍光灯に接続されている電源コードを手で抜き取ります。
- 9.3 蛍光灯を固定している四隅のネジをドライバーで取り外します。

9.4 取り外しの時と逆の手順で新しい蛍光灯を取り付けます。



## 10. 使用上の注意

コントロールパネル上の検測数値が短期間に異常値を表示しアラームが作動した場合には以下の原因が考えられます。

- 10.1 製品内の化学薬品濃度が瞬間的に高くなった場合、しばらく製品を作動させることで正常値に回復します。
- 10.2 室内のホルマリン濃度が異常に高い場合、窓を開け風通ししてください。
- 10.3 フィルタモジュールは水素、ヘリウム、不活性ガス、メタン、エタン、エチレンオキシド、一酸化炭素、二酸化炭素、一酸化窒素、プロピレン、プロピン、アセチレン、有機リン化合物、水銀、青酸、放射性同位元素などでは吸着効果に差があるため多量に使用することはしないでください。
- 10.4 製品扉上に酸霧結晶ができた場合は水かガラスクリーナーで拭き取ってください。
- 10.5 その他の状況が発生した場合には販売店経由で総代理店へ連絡してください。

日本市場總代理販売



山水堂(香港)有限公司

所在地:香港九龍旺角道 33 号 凱途發展  
大廈 7 樓 04 室

電話: (+852) 2793-5511

Fax: (+852) 3590-2333

Mail: [webinfo@sansuido.jp](mailto:webinfo@sansuido.jp)

<http://www.sansuido.jp>